

となつたであらう。著者に今進行中のベ
ット訳維摩經の和訳が加へられ、より充実
した研究成果が次回に発表せられるのを期
待するものである。昭和四十一年二月、
法蔵館刊 本文六百頁、五千五百円（三桐）

民間念仏信仰の研究資料編

仏教大学民間念仏研究会編

九世紀中葉円仁によつて我が国に移入さ
れた五台山念仏三昧の法は、謂ゆる山の念
仏として叡山を中心に、教学的・思弁的背
景を持つ念仏信仰を成立せしめてきた。一
方この念仏は十世紀に入ると、空也をはじ
め幾多の念仏聖の活動により民間に普及滲
透せしめられ我が国固有の信仰と結合して
庶民化し、民間念仏信仰を形成したのであ
る。この念仏信仰は文学を持たぬ庶民に代
表される基層社会を基盤として受容せられ
ために、文献に残ることはきわめてまれで、
多くは庶民的寺院の法会、年中行事、農耕
儀礼、民俗芸能、葬送習俗など、庶民の日
常生活にかかわる行事や芸能と結合し、大
念仏、六斎念仏、雨乞念仏、念仏踊、葬送

の念仏など、さまざまな形態の民俗的念仏
として伝承継受され現在に至っているのだ
がある。この民間念仏信仰の解明は日本仏教
史の重要な研究課題の一つであるが、その
ためにはまず、全国各地に細々と伝承せら
れている幾多の民俗的念仏の採集と整理が
急がねばならないのである。

本書は仏教大学民間念仏研究会が昭和三十
六年より四年間にわたり、全国各地に伝
承せられている民俗的念仏の調査をおこな
い、それを形態面から整理分類せられた資
料集である。この分野における先駆的な研
究の一として、又その調査規模が全国的な
ものであるだけに、我が国念仏信仰史上劃
期的な意義を有する業績といわねばならな
い。以下順を追つて本書の概要を紹介した
い。

本書は全体を三編に分つ。第一編は全国
六百ヶ所に伝承せられた民間念仏行事と芸
能を照会と文献調査により分類整理した一
覧表である。百万辺念仏、双盤念仏、大念
仏、六斎念仏、踊り念仏、その他の念仏の
六章にわかれ、各々に解説を付して地域別
に区分し、さらにそれを農耕儀礼、疫病退
散儀礼、追善儀礼と機能的に分類し、名

称、日時、場所、行事内容等を簡潔に表記
したものである。これによつて我々は現存
する代表的な民間念仏の分布状態とその概
要をしらうるのであり、今後の実地調査や
研究をすすめるにあたり、きわめて便利な
手引・目安をうることができたのである。

第二編は、第一編にかかげられた全国諸
地域に残存する民間念仏のなから、仏教
大学民間念仏研究会が直接実地に調査採集
せられた報告約九十例を集録したものであ
る。報告は第一編と同様に形態別に百万遍
念仏以下の六章に分類せられており、各々
の事例について克明な記録がなされてい
る。特に写真と図表を豊富に挿入し、金石
文、文献等をも加えた立体的報告であるこ
とは本書のまことにすぐれた一大特色とな
っている。これによつて形態別に民間念仏
信仰の具体的な特色と地域差の概略を把握
しうるのであり、今後の調査研究による比
較検討の素材として、きわめて貴重な資料
を得たといえる。

第三編は民間念仏信仰に関する文献資料
をあつめたものである。民間念仏の研究は
残存せる伝承資料とともに、従来すてか
えりみられなかった幾多の記録類が活用せ

られて、はじめてその実態の歴史の解明が可能となるのである。特に念仏を民間に滲透せしめた聖の歴史とその性格をあきらかにするためには文献記録が不可欠のものとなるのである。本編は融通念仏縁起、空也上人絵詞伝、一向上人伝をはじめ縁起・和讃など十篇に解説を付しておさめている。そのなかには光福寺の浄土常修六斎念仏興起や村方支配控牒など、一部の研究者がその所在を知るのみで、未だ充分学界に於いて活用せられるに至らなかった記録が多い。浄土教史、民間信仰史の特異な史料としてのみならず、広く日本仏教文化史料として、今後の研究に寄与するところ大なるものがあると云わねばならない。

以上が本書の概要である。基層社会を根底にふまえて成立する日本の文化遺産に関する一大記録として、本書の価値ははかりしれぬものがあると思われる。続いて研究編が公刊せられ、民間念仏の研究が新しく一步前進する時の来らんことを共に切望する次第である。八昭和四十一年二月、隆文館刊、A5版、本文五七九頁、索引三八頁、¥二八〇〇▽（佐々木）